

# 米金融政策変更は当面見送りへ

## ポイント① 経済成長率見通しを下方修正

3月19、20日開催のFOMC(米連邦公開市場委員会)では政策金利であるFF(フェデラルファンド)金利の目標レンジは、2.25～2.50%で据え置かれました。昨年未まで概ね3か月に1回、0.25%ずつ行われてきた利上げが止まりました。

この背景には、FOMC参加者が米国の景気を、より慎重に見るようになったことがあります。図1に示されたFOMC参加者の経済見通しの中央値によれば、2019、20年の実質GDP(国内総生産)の成長率は昨年12月の前回見通しから下方修正されました。

## ポイント② 年内利上げなしの見方に変更

今後の政策金利動向についても、昨年12月時点では今年に0.5%の利上げが予想されていたものが、今回は年内変更なしという見方になりました。

また、FRB(米連邦準備制度理事会)の保有資産削減策についても、5月から削減ペースを緩め、9月に削減を停止することを発表しました。全体的に見て、FRBの金融政策は、かなりハト派に傾いたようです。

## ポイント③ 市場は先行き利下げを織り込む

こうした動きを反映して、米国の国債利回りは低下しました。特に2～5年程度の償還期限の債券利回りは一時2.3%台まで下がり、より短い期限の金利の水準を下回っています。この点では、金融市場は既に先行きの利下げを織り込み始めたと見られます。

ただし、FRBとしては当面金融政策の変更を見送る姿勢のようです。また、今後の景気、物価などの動向次第で利上げも利下げもありうるという状況であり、利下げが決定的とまでは言えないでしょう。

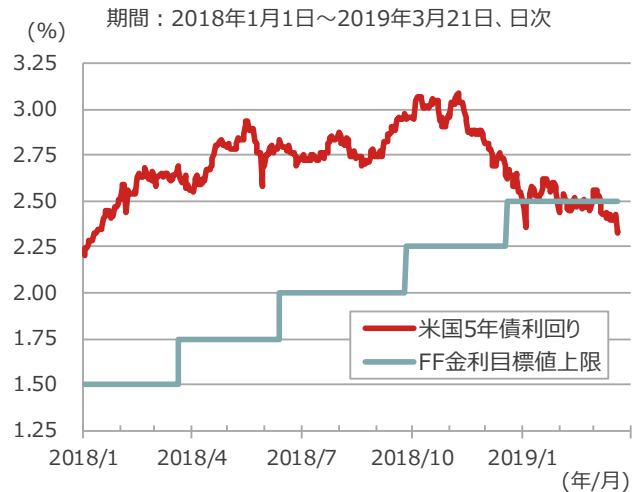
図1：FOMC参加者の経済見通し中央値

	予測時点	2019	2020	2021	中長期
		実質GDP <sup>1</sup>	19年3月 18年12月	2.1 2.3	1.9 2.0
失業率 <sup>2</sup>	19年3月 18年12月	3.7 3.5	3.8 3.6	3.9 3.8	4.3 4.4
個人消費支出 デフレーター(総合) <sup>1</sup>	19年3月 18年12月	1.8 1.9	2.0 2.1	2.0 2.1	2.0 2.0
個人消費支出 デフレーター(CJP) <sup>1,3</sup>	19年3月 18年12月	2.0 2.0	2.0 2.0	2.0 2.0	
FF金利 <sup>4</sup>	19年3月 18年12月	2.4 2.9	2.6 3.1	2.6 3.1	2.8 2.8

(注) 1：第4四半期の前年同期比 2：第4四半期平均値

3：エネルギー、食料品を除く 4：年末または中長期の目標レンジ中央値  
(出所) FRB資料より野村アセットマネジメント作成

図2：FF金利と米国5年債利回り



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

重要  
イベント

4月1日 米ISM(サプライマネジメント協会)製造業景況感指数(3月)  
4月5日 米雇用統計(3月)

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。